



原田牧場 Note

page 17

牧場の母さんが担当してきた子牛のお世話（ミルクやり）を私が引き継ぐ時代になりました。こんな日がくるとは！ 牧場の根幹だけに誰にも触らせなかった部門です。母さんにしかやれない目分量や加減。哺乳の勉強会で知識は頭に入っているけど、私にはまだ無理と思っていました。が、その時は急に訪れるのです。引き継ぎとして母さんから教わったのは、

「その子牛（個体）と相談しながら」というシンプルなもの。寒さ暑さ、ミルクの量、健康状態、寝床の掃除、全てが間に合っているか？ を

「その子牛と相談して」と。観察眼なら誰にも負けない自信があるので、やってやるぞ（やるしかない）という気持ちになりました。

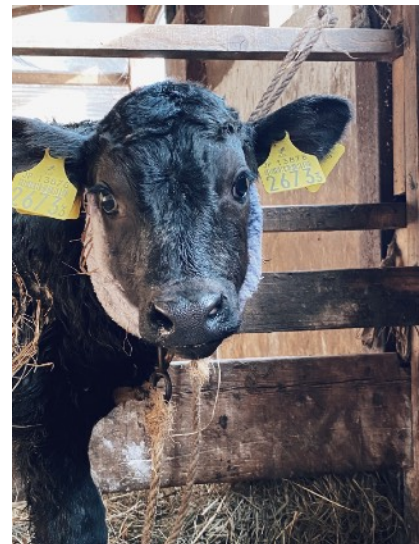
分娩後母牛から搾る一回めの乳を初乳といいます。初乳に含まれる母牛の抗体を摂取することで子牛は免疫力が高まり病気から守られます。しかし、抗体を吸収できる能力は出生後 時間とともに低下、6時間経つと50%、24時間でほぼ消失します。初乳に含まれる免疫物質も時間とともに少なくなっていくので、分娩後は速やかに搾乳し、2時間以内に子牛に飲ませることが強い子牛を育てる第一歩となります。分娩が夜中の場合もあるし、早朝生まれていた、ということもあるので気が抜けない日々になりました。安産でホッとしても、搾ってみたら初乳の免疫成分が低かった＝足りない！ 泌乳自体が初めての初産牛だとちょびっとしか出なかった＝足りない！ 生まれてみないとわからないアクシデントに対応しながら、免疫獲得タイムレースを走っていきます。成功させるには子牛との協力が必須。生まれたてびしょびしょの体は藁で拭いてやってヒーターで温めます。冷えてぶるぶるしている間は初乳を飲みません。臍の消毒もすぐやります。

苦労して出てきた子は誤嚥気味でゲホゲホしている場合もあるし、元気そうに見えても飲み方がわからずボーッとしている子もいます。「子牛と相談して」が始まります。子牛は母牛に舐められると血流が良くなりマッサージ効果でリラックスし飲むようになると聞いていたので、タオルで体を強めに撫でて（母牛の舌はザラザラなんです）、急いで飲ませたい気持ちを一旦置き子牛が温まるのを待ちます。子牛はそれぞれ個性が違うので毎回新しい二人三脚です。狭い産道を抜けやっとのことで生まれてみたら、必死の形相の代理母に急かされてる…なんだこれは！と子牛もびっくりでしょう。どこで勉強してきたのか不思議なくらいすんなり初乳を飲んでくれる子もいて、ぐいぐい吸う力から命の始まりを感じつつゴールできた日は最高です。

2日目はお腹の下まできちんと体が乾いているかチェック。床からの冷気に弱いので冬はベストやマフラーを着せます。立ち上がっている姿勢を見て四肢に異常がないか？を確認。下痢はしていないか？目に力があるか？鼻は乾いてないか？風邪をひいてないか？元気であれば、ミルクやりへ。子牛が機嫌よく飲む量だけやります。飲みながら尻尾をリズムカルにふりふりしてくれたら機嫌がいい証拠です。おいしい〜♪と体で表現してくれます。これを見たらみんな、なまらめんこい！って言ってしまうはず。母牛から搾ったミルクはパスチャライザーを使い60度で30分低温殺菌したあと40度くらいまで冷まして与えています。子牛があまりにも喜んで飲むので味見したら想像以上に美味しかったです。自宅で飲む時は沸騰直前まで高温で殺菌するので風味が違いました。子牛の気持ちになって考えるを習慣に、寝藁が湿気っていたら交換、寒くても換気は大事、時には呼びかけて撫でてやり人馴れの練習。（可愛がりすぎには注意。子牛でも遊びで突進されたら危険）この時に培った、人との信頼関係は一生物。イイ距離感を保ちます。ホルスタインの♀は我が家に残りますが、ホルスタインの♂、ホル×和牛の交雑種、授精卵移植で生まれる和牛、は一週間ちょっとで市場へ出て行き、肉牛肥育農家へ移動します。

酪農家は乳製品だけでなく牛肉食品すべての源流だというプライドをかけて、我が家に残らない子もしっかり丈夫に栄養満点に育て、市場に送り出しています。肥育農家も餌の高騰などで業界厳しく、市場でついた価格が500円だった時期もあります。朝も夜もなく働いてこの評価…とガックリしてしまいそうになりますが、市場価格＝私の評価ではない。と思い直し命の始まりから面倒を見た子牛たちが、とびきり元気に出ていった日は自分に最高評価をつけています。そんな背景を知っていただき、

皆さんには、国産国消（国民が必要とし消費する食料はできるだけ自国で生産する考え方）をよろしくお願いします。



筆者 原田 希

1973年 大阪府吹田市生まれ

2006年 酪農家との結婚を機に北海道標茶町へ

2017年 北海道農業士に認定 北海道指導農業士の夫とともに

新規就農者の支援や女性農業者向けの勉強会のお世話係を担当